



100年企業社員の わが社のひみつ

社員の方の日常からわかる、
100年企業の魅力。



誰もが働きやすい環境づくりに配慮した、新本社ビルの事務室。



週1回、女性社員を対象に外部講師による生花教室を開催。



日本三大稲荷の一つ、祐徳稲荷神社(佐賀)にある当社の祠。

2020年に落成!
明るく開放感のある室内
ほかに休憩室や宿直室も完備

花のある生活でリフレッシュ
作品はお持ち帰り
仕事の気分転換にも

コロナ前は毎年1回
全社員で祐徳稲荷へ参拝
安全を守る決意表明



社屋のすぐ目の前に基地港があり、自社船舶を身近に感じられます。



来社されたお客様に少しでも安らいでいただくための庭園。



十数年ほど前から自然と会社に住みつくようになった黒猫の「クロ」。

鮮やかなオレンジ色が目印
いつでも出港出来る準備体制
船員とのコミュニケーションも大切に

四季を感じられる花々と
歴史を感じる風情で
御客様をおもてなし

いつも皆を癒やす存在
大切な社員の一人であり
社員、船の見守り役です

株式会社近藤海事
本社: 〒808-0027 北九州市若松区北湊町3-24 TEL.093-761-1111
創業: 1904(明治37)年5月 ■ 従業員: 57名(23年1月現在)
東京支店
事業概要: 事業概要: サルベージ事業、超重機船による重量物荷役、海上輸送(内航運送業・貨物運送取扱事業)、曳航(内航・外航)、港湾土木工事・鋼構造物工事 特定建設業、橋梁架設、大型特殊船入出港作業、警戒船業務、船舶解体作業、各種水中作業(水中検査事業所承認)など
(ホームページ) <http://konsal.co.jp/>

ホームページ



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559

この「若松レガシー」はポートレース若松の事業費の一部を活用して作成しています

東邦チタニウム株式会社 東邦チタニウム株式会社は当事業に協賛します

令和5年3月発行

先代から受け継いだ
モノ、ココロ



私たちが日頃仕事をできているのは
当たり前なことではなく、御客様や
協力会社の皆様、社員の御家族
等あらゆる方々のお陰様であり有り
難いことであるという「あかげさまで」の
精神を大切にしています。

採用の取り組み、
働く環境



船員の採用を強化しており、「目指せ!海技士セミナー」にも出展。また、業務に必要な資格取得の援助も行っています。若戸大橋を臨むテラスのある新社屋は働きやすい環境も整備され、休憩室でランチやコーヒータムを楽しむ社員の姿も見られます。

100↑



若松レガシー

株式会社近藤海事

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



若松の地に創業して119年。 「株式会社近藤海事」の ひみつを探ってみた。

サルベージ業で培った経験・技術力を 応用し、多数の国家プロジェクトにも参画

座礁軍艦の撤去を機に海事部門を創立

1904(明治37)年、今では日本遺産の一つとして知られる愛媛の村上水軍の血を引く初代が、若松の地で「近藤組」を創業。当時は船舶解体のほか、酒類・醤油・味噌販売の商いを行っていましたが、1925(大正14)年、福岡県沿岸で座礁した海防艦「沖島」(元バルチック艦隊海防戦艦)の解体撤去を依頼されたことをきっかけに海事部門を創立。この一歩が現在まで続くサルベージ事業の大きな礎となりました。

サルベージ事業を通じて培った知見と技術力

船舶の撤去や解体、クレーン船の作業等で培った技術力により、1944(昭和19)年には日本陸軍の海上輸送部隊「曙部隊(通称)」において、海難救助部隊として従事。全社員と船舶、資機材ともに広島・呉港に移動し活躍した後、終戦とともに若松に戻ってきました。戦後は当時日本最大と言われた400トンの吊り双胴型起重機船「よろず丸」を建造。関門海峡や洞海湾で沈没した船舶200数十隻を無償撤去し、関門港開港に貢献しました。

御客様のニーズに合わせて事業を多角化

その後、ジャケット/プラント/プラットフォーム等といった大型構造物の曳航/海上輸送やアンカーハンドリングタグによる海底油田開発工事、臨海土木工事、離島の保全工事/生態調査への参画等、総合海事会社として事業を多角化してきました。

近年では再生可能エネルギーの広まりに伴い、長崎県五島列島や福島沖等における浮体式洋上風力発電関連工事に本格参画し、日本全国を舞台に事業を展開しています。

「安全は社員の福祉と幸せの原点である」の基本理念のもと「絶対安全作業」を基本方針として定め、常に変化し続ける環境に対応し、これまでに培った知見と技術力をもって御客様のご要望にお応えするべく社員一丸となって取り組んでいます。

創業120年を目前にさらなる未来に向けて走り続けます。

主な運航船舶(船名)
【海難救助船兼曳船】「章駄天(1997)」「五猛(2013)」「雷神(2014)」「調査業務船兼海難救助船】「風神(2010)」「貨物船】「恵運丸(2016)」「第3神楽丸」【超重機船】「不退転」「第八開業丸」【作業艇】「うしわか(2010)」「よしつね(2012)」「べんけい(2015)」「【船舶】「朱雀」「あさひ」「海神丸」「東神」「白龍」「SK-107」「SK-11」「進和1号」



50の手習いで始めたというゴルフ。早朝ラウンドでも目覚めはバツリ。ストレス解消になる半面スコアに一喜一憂の日々。

【インタビュー】

社長さんに聞いてみた。

株式会社近藤海事 代表取締役社長 かみかわ こういち 上川 孝一さん

いつ何時も救助に駆けつける、サルベージの誇りを受け継いで。「技術の近藤海事」の底力を、いかに伝承していくかが課題です。

一若松の地でなぜ119年続いてきたのか？

代々受け継いできた社は「おかげさまで」という言葉に尽きると思います。戦後は呉での実績をかわれ、大阪進出も勧められたそうですが、2代目社長は「若松に留まる」と頑として動かなかった。そこには「おかげさまで」の感謝と郷土愛があったと思います。

瞬時の判断が試される。天候に左右される海上、揺れる船上で培った技術力を、いかに若い世代に伝えていくかが課題です。事業としては、次世代エネルギー関連の仕事にも力を入れていきたいと思っています。

一近藤海事ならではの強みや魅力は？

早期から海事部門に軸足を置き、海難救助やサルベージ事業に特化したことは強みだと思います。人命救助も含むサルベージは、いつ救助依頼が入るか分かりません。24時間365日体制で迅速に対応することが求められるので、夜は会社に宿直者が必ずいます。長年続けてきた背景には、「何があってもすぐに救助に駆けつける」というサルベージとしての誇りが受け継がれていると思います。

一6代目社長として大切にしていることは？

社員との対話でしょうか。私どもの仕事は、一人の力では動かせない大きなものを取り扱いますから、チームワークや社員一人一人の健康と安全が第一です。毎朝のラジオ体操や清掃で顔を合わせて、体調を慮ったり、元気のない社員には声をかけたり。日常の小さな積み重ねを大事にしたいですね。

一社長の好きな言葉やモットーは？

一つは「夢なき者に成功なし」。私の夢は社員とその家族が「近藤海事でよかった」と思える職場環境を整えることです。ホームページには、戦術家ハンニバル・バルカの名言「方法は見つける。なければ作る」を掲げていますが、私たちも長い社歴に裏付けされた経験と技術で、あらゆる海事の難題を解決する方法を見出していきたいと思っています。

一今後の目標や展望は？

「技術の近藤海事」を継承するため、日々研鑽を積んでいますが、サルベージは、同じ現場がない仕事です。絶えず異なる条件にさらされ、決まったルールでやれるものは一切なく、

近藤海事 119年の軌跡

| 時代 | 年 | 内容 | 昭和 |
|----|-----------|----------------------------|----|
| 明治 | 37 (1904) | 若松で「近藤組」を創業 | 昭和 |
| | 37 (1904) | 若松港が特別輸送港に指定 | |
| 大正 | 10 (1921) | 若松港が第二種重要港湾に指定 | 昭和 |
| | 14 (1925) | 「近藤組・海事部門」を創立 | |
| 昭和 | 12 (1937) | 「海難救助部門」及び「沿岸荷役部門」を開設 | 平成 |
| | 19 (1944) | 日本陸軍暁部隊の海難救助部隊として徴用され呉港に移動 | |
| 昭和 | 20 (1945) | 終戦とともに徴用解除となり若松の地に戻る | 令和 |
| | 21 (1946) | 社名を「近藤海事工業所」とし、関門港開港に貢献 | |
| 令和 | 38 (1963) | 五市合併。若松市から若松区へ | |

若松のまちや人との関わり



「おかげさまで」の精神で、地域活動や祭りにも積極的に。

ラジオ体操から周辺の清掃へ。奉仕を日課に。

近藤海事の日課は、毎朝8時からラジオ体操を行い、安全スロガンを唱和し、本社周辺の清掃を全社員で行うこと。20年以上続けてきた清掃活動は、第42回北九州市環境衛生大会で「北九州市まち美化協力功労団体」として表彰されました。社は「おかげさまで」の精神をモットーに「継続は力なり」を実践しています。

地域振興のため「ごんぞうレース」等にも参加。

近藤海事では、地域振興を支援する活動として、さまざまなイベントにも積極的に参加しています。たとえば、若松みなと祭りで行われる石炭荷役から発想した「ごんぞうレース」には、コスチュームなどを工夫して積極的に参加。特別賞などの受賞にも輝いています。コロナ禍を経て、再開が楽しめる活動の一つです。



近藤海事 × SDGs 事業活動と企業活動により、社会課題の解決・地球環境の保全に貢献

近藤海事では、総合海事事業を通じて社会課題解決に寄与するとともに、日々の企業活動においても社会課題の解決・地球環境の保全に取り組んでいます。

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>CASE ① 洋上風力発電への貢献</p> <p>響灘再生可能エネルギー産業推進機構等、洋上風力発電産業に携わる企業の一員として、洋上風車設置等の海上工事に係る技術力を蓄積し、再生可能エネルギーの安定的な創出に貢献します。</p> | <p>CASE ② ブイメンテナンスを通じた海洋汚染防止</p> <p>これまでに培ったブイメンテナンスの技術を活かし、航路標識の設置・保守及び機能障害発生時の回復措置等の業務に取り組み、船舶の安全航行に寄与することで、船舶の事故等による海洋汚染の防止に貢献します。</p> |
| <p>CASE ③ 本社周辺の環境美化による地域貢献</p> <p>これまで二十余年続けてきたとおり、毎日社員全員で本社周辺のごみ拾いを実施し、街の環境美化に取り組むことで、地域の皆様が気持ちよく過ごすことのできる街並みづくりに貢献します。</p> | <p>CASE ④ 清掃ボランティアによる河川・海洋環境保全</p> <p>河川愛護企業の一員として、定期的に河川の清掃・除草に取り組み、河川水質汚染の防止及び河川景観の保全に貢献します。また、本社近郊の海岸清掃ボランティアに積極的に参加し、海洋環境の保全に貢献します。</p> |